

(事情により、サイト更新が遅れました。)

## 超近代への理論と実際組織 1

(や＝山田 学)〔☆☆☆超近代への理論と実際組織☆☆☆☆社会の激動が予想される、今において、さまざまなものごとの「素性」を確認してゆくことが、大切です。たとへば、国家とは本来、どういふものか。〕

先月、JOMONあかでみいサイト「店頭」画面にて公開した、次の文章を、お読みいただけましたでしょうか。ご検討いただけましたでしょうか。

〈はるかな健康平和への祈り〉

ひとりひとり迷ひの近代から脱出する提案

表紙 [http://www.jomaca.join-us.jp/inori\\_fine.pdf](http://www.jomaca.join-us.jp/inori_fine.pdf)

本文 (7枚)<http://www.jomaca.join-us.jp/inori.pdf>

この文章の最終項冒頭に、かう書きました。〕

〈はるかな健康平和への祈り〉本文7ページより)〔

諸国家の攻防の時代の終末を祈り、単純な目的の確認です。

生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。〕

(や)〔むろん、この数千年間の諸国家の攻防の時代を、終末へと推進するには、国家とは本来、どういふものか、について、本格認識が必須です。

幸ひ、日本社会は在野にて、滝村隆一師 (19

44～2016) 著の次の理論を、保持してをりま

す。

『国家論大綱 第一巻 上』(勁草書房2003年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11852558>

『国家論大綱 第一巻 下』(同2003年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g11869891>

『国家論大綱 第二巻』(同2014年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g16691754>

『ニッポン政治の解体学』(時事通信社1996年)

<https://www.honyaclub.com/shop/g/g1169680>

これらこそ、日本社会が、人間社会の歴史に誇るべき、珠玉の本格理論であると、山田学は考へます。さういふことなのだ!と、早く気づく若い人びとが増えることを、切望いたします。

次に、先の引用にある、〈生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。〉生産の社会、すなはち、労働による生産の社会の本質は、人民がおたがひに、各種生産物を媒介とし、良くも悪くも、おたがひの生活を生産しあつてゐることです。人民自身がそのことを、どれほど意識してゐるかは、別として。なら、生産の社会の本質から、〈生産の目的は、人民おたがひの健康平和な生活を生産しあふことです。〉といふ、単純な目的を確立すればよろしい。〈健康平和な〉といふ基本用語については、〈はるかな健康平和への祈り〉の本文前半にて、規定してをります。人民ひとりひとりが、この単

純な目的を確立し、意識してゆくことこそ、資本制社会のあらゆる問題を解決してゆくための、起点です。社会の運営や指導について、あれこれ構想する前に、必須の起点です。たとへば、マルクスの学問・思想には、これが不足してゐた。

16世紀より、西欧民族主導にて、資本制社会が発達してきた。それを土台とし、17世紀より、西欧民族主導にて、国民国家思想(ホップズ、ロック、ルソー、カントら)を創出しつつ、実際に国民国家を創出してきた。が、諸国家の攻防の時代は、続いてゐる。

諸国家の攻防の時代を、終末へと推進するには、社会にて国家活動の及ばない範囲、つまり民間からこそ、〈次の時代の公共〉を創出してゆく必要があると、山田は結論しました。この意味にて、1917年ロシア革命以降のあらゆる共産主義・社会主義・社会民主主義国家には、限界があると、考へます。

着目すべきは、資本制社会の発達において、商品内容(物品ないし活動/労働力/株式債権寄付)が、どう発達してきたか。第1次・2次・3次・4次産業などと言はれてきたが、その延長にこそ、最終商品として、社会の健康平和な運営や指導といふ活動の事業が、可能ではないか。

次に着目すべきは、国民国家の活動内容が、どう発達してきたか。それには、統治(外交・通商貿易・金融政策・軍事・治安警察)と、行政(それ以外)とが、ある。まづ、行

政内容の社会政策や経済政策などを、無理なく、無駄なく、民間の〈次の時代の公共〉へ、止揚（形式は否定し内容は保存）してゆく。統治内容の止揚は、諸国家均衡（仮の平和）のため、将来のこととなります。

近代の国民国家の場合と同じく、超近代も、まづ理論を創出しつつ、実際の組織を創出してゆきます。とくに、近代の人権思想の中途半端を、超える。〈人民の健康平和な生活を保護し推進する地球公会規範〉。これを、現実冥想（健康平和な、現実の認識の、蓄積）にて、どう創出できるか。これを中心とした、『地球公会の理論』を創出しつつ、実際に地球公会を創出してゆく。

むろん、時間がかかる事業ではあります。が、不可能ではない事業であると、考へます。なぜなら、先述の滝村国家論にて、諸国家の歴史の本質が、現実の認識として、すでに明示されてゐるからです。さういふことなのだ！と、早く気づく若い人びとが増えることを、切望いたします。（「超能力者の救世主が、瞬間芸にて地球救済するのを、期待する…」なんぞは、夢想です。地道な理論創出と、実際組織創出が、必須です。）

資本制社会はすでに、国境を超えた、地球表面統一を、志向しつつあります。今のGAFAMや世界経済フォーラムなどは、しかし、ICTや遺伝子工学などにも、とらはれてをり、彼らに、〈人民の健康平和な生活を保護し推進する地球公会規範〉の創出は、無理でせう。

逆に、人民の健康平和な生活を妨害してでも、自己の資産増殖に、とらはれてゐる面があります。

滝村国家論に限らず、諸国家の攻防の時代を、終末へと推進する起点として、実は、わが日本社会（主に民間）がもっとも、さまざまに豊かな条件に、恵まれてゐるのです。が、今の「日本国」は実質、〈米国統治下の自治行政区域〉です。〈自立国家〉ではありません。1776年に英国から独立宣言する前の、米諸州に、似たところもあります。わが幕末維新のやう、なるべく混乱の少い過程にて、日本国統治の自立強化と、日本国行政の地方分権化が、必須です。一部行政の民営化も含む、われわれの〈超近代開拓運動〉を、保護し推進するためでもあります。

ヨガの沖 正弘師（1919～1985）は、戦中1939年に、陸軍スパイ任務の必要上、インドのマハトマ・ガンジー師のもとに、長期滞在しました。のち1942年には、陸海軍の将軍に、ヨガを説いてゐます。その沖師が終戦後、どういふ心境となつたか。沖師著から、引用いたします。]

（『生きている宗教の発見だけでも悟り救われる沖ヨガ修行法』竹井出版1985年・30ページより）〔終戦を境にして私の心は百八十度変り、人類の争いに対して大反省の心が起りました。なぜ戦争が起るのだろうか、戦争をしないようにするにはどうしたらよいのだろうかと深く考え、そこで再びガンジー

聖師の平和思想を学び直す心になりました。そして戦争の問題を考えたときに、私の気づいたことは、全人類は懺悔心（おわび心）と愛し合う心を持たなければ救われないということでした。お互い同士がわびあうのです。兄弟でなぜ戦わなければならなかったのだろうか、とわびあう気持ちを持たなければ救われる道は開かれませんか。]

（『実践冥想ヨガ生活篇』日貿出版社1978年・79～80ページより）〔私の心には戦争をすることはいけないのだ、ということよりも「なぜ人間は戦争をしてしまうのだろうか」「どうすれば、戦争をしない人間が作られるのであろうか」という願い心が生まれてきまして、また世界平和が欲しいという願いよりも、「なぜ世界平和が与えられないのであろうか。どうすれば世界平和を実現しうる人間が作られるのであろうか」との疑問と願いと祈りを求める心が生まれてきました。とくにこの心が強く起きたのは、引揚直後、私の本籍の広島の悲惨を見たからでもあります。]

（や）〔わたしは20歳代にて、上記沖師文言を、胸の奥に刻み、右翼から左翼まで、科学から宗教まで、学者から民衆まで、縦横無尽に探検しました。さうしてやうやく先月、『地球公会の理論』へ向けての、最初の呼びかけ文たる、〈はらかな健康平和への祈り〉執筆に、たどりついたわけです。日本列島の純情な日本民族が、社会防衛のための富国強兵として、

大日本帝国を創出し、のち、日独伊三国同盟などにより、ファシズム傾向も浸透し、あげく、敗戦した。ついでに、ヒロシマ、ナガサキまで、体験させられた。さういふ極限体験を、語り継ぐ情念としても、わが日本社会は、諸国家の攻防の時代を、終末へと推進する起点として、ふさはしいのではないでせうか。突然ですが、週刊ポスト誌に、次の記事見出しが躍りました。]

(週刊ポスト2024年7月19/26日号・112～113ページより・見出し) [

### 小泉進次郎が「UFO機密」暴くか

「安全保障上の深刻な脅威」——ついに超党派議員連盟が立ち上がった]

(同小見出し) [政界が本腰を上げてUFO(未確認飛行物体)に向き合い始めた。空飛ぶ円盤＝「宇宙人の乗り物」としてロマンを掻き立てたのは過去の話。いまや「安全保障上の深刻な脅威」として喫緊の課題のようだ——。]

(同本文より) [今年5月、超党派の国会議員有志89人による「安全保障から考える未確認異常現象解明議員連盟」(通称「UFO議連」、会長＝浜田靖一・自民党国対委員長)が立ち上げられた。]

(や) [同議連幹事長・小泉進次郎氏と事務局長・浅川義治氏は、神奈川県選出であり、神奈川県民のわたしとしては、“身近な”話題でもあります。わたしは、両氏それぞれの、

政治立場に、賛同する者ではありませんが、超党派として、重要な動きであると、認識します。〈はるかな健康平和への祈り〉にも、かう書きました。]

(〈はるかな健康平和への祈り〉本文7ページより) [なほ、地球人は、宇宙において、まだ後進生物であるに、すぎません。その現実を正視する準備としても、現実冥想と現実愛の積み上げが、必須なのです。]

(や) [せつかくのマスメディアや、また、インターネットに、架空の認識も、あふれてゐる。

将来の〈地球公会の時代〉へ向け、宗教も、哲学も、政治も、それに含まれる、架空の認識の部分については、しだいに、必要とシなくなる状況が実現すると、わたしは想ふのです。]